

## 英語 (English)

### 発信型英語 (Communicative English)

(総科((人文C)2年))

福田, スティーブ・利久・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

**【授業の目的】** 実践的な英語コミュニケーション活動を通し、英語での自己表現に慣れ・親しむ。

**【授業の概要】** 「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」は基本的な思考法や言語運用能力を身に付けことを目的にしている。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視することを定めている。分かるように、英語は言葉であり、言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションとは物事を「伝える」ことや情報を「集める」ことである。講義では英語の「勉強」というより、Speaking と Writing 活動を通し、自分自身のことについて「伝える」練習と、Listening と Reading 活動を通して、他の学生の地元や過去の経験についての情報を「集める」練習を、英語プレゼンテーションを作成しながらする。

**【キーワード】** 英語プレゼンテーション

**【先行科目】** [先行科目]

**【関連科目】** [関連科目]

**【到達目標】** ①英語プレゼンテーションスキルを身につける。 ②英語を使うことに対する自信をつける。 ③自分と自分の将来についてもっと深く考える。

**【授業の計画】**

1. 言葉・コミュニケーションとは何かを考える。
2. ミニ・プレゼンにチャレンジをする。
3. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
4. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
5. ミニ・プレゼン①をする。
6. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
7. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
8. ミニ・プレゼン②をする。
9. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
10. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
11. ミニ・プレゼン③をする。
12. ファイナルプレゼンの準備をする。
13. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

14. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

15. ファイナルプレゼンをする。

16. ファイナルプレゼンをする。

**【教科書】** なし

**【参考書等】** マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN: 475032163X

**【成績評価の方法】** 20%ミニ・プレゼン①・②・③ 20%ファイナル・プレゼン 10%授業参加評価 10%宿題

**【再試験の有無】** なし

**【受講者へのメッセージ】** 再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をすること。

**【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220883>

**【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】**

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, [steve@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:steve@ias.tokushima-u.ac.jp)) MAIL (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

# English

## Communicative English

(総科((人文C)2年))

Steve Fukuda・Toshihisa・ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF SOCIO-ARTS AND SCIENCES

2 units 前期 月 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

**Target)** 実践的な英語コミュニケーション活動を通し、英語での自己表現に慣れ・親しむ。

**Outline)** 「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」は基本的な思考法や言語運用能力を身に付けことを目的にしている。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視することを定めている。分かるように、英語は言葉であり、言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションとは物事を「伝える」ことや情報を「集める」ことである。講義では英語の「勉強」というより、SpeakingとWriting活動を通し、自分自身のことについて「伝える」練習と、ListeningとReading活動を通して、他の学生の地元や過去の経験についての情報を「集める」練習を、英語プレゼンテーションを作成しながらする。

**Keyword)** 英語プレゼンテーション

**Fundamental Lecture)** [先行科目]

**Relational Lecture)** [関連科目]

**Goal)** ①英語プレゼンテーションスキルを身につける。 ②英語を使うことに対する自信をつける。 ③自分と自分の将来についてもっと深く考える。

**Schedule)**

1. 言葉・コミュニケーションとは何かを考える。
2. ミニ・プレゼンにチャレンジをする。
3. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
4. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
5. ミニ・プレゼン①をする。
6. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
7. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
8. ミニ・プレゼン②をする。
9. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
10. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
11. ミニ・プレゼン③をする。
12. ファイナルプレゼンの準備をする。
13. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

14. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

15. ファイナルプレゼンをする。

16. ファイナルプレゼンをする。

**Textbook)** なし

**Reference)** マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN: 475032163X

**Evaluation Criteria)** 20%ミニ・プレゼン①・②・③ 20%ファイナル・プレゼン 10%授業参加評価 10%宿題

**Re-evaluation)** なし

**Message)** 再履修者は他のシラバスになるので、第1回目の授業までに連絡をすること。

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220883>

**Contact (Office-Hour, Room, E-mail)**

⇒ Fukuda (English Support Room, [steve@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:steve@ias.tokushima-u.ac.jp)) MAIL (Office Hour: Please send an e-mail for appointments.)